

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	インターンシップ A	
科目基礎情報							
科目番号	110417			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実習			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	機械工学科			対象学年	4		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	インターンシップ実施要領 (プリント)						
担当教員	越智 真治						
到達目標							
1.これまでに学んだ知識や実験技術が、実社会でどのように生かされるかを体験すること 2.組織の一員としてのマナー、個人としての責任感、技術者としての倫理の重要性を実感すること 3.実習内容や、そこでの社会的経験を発表できること							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	これまでに学んだ知識や実験技術が、実社会でどのように生かされるかを理解し、説明できる。			これまでに学んだ知識や実験技術が、実社会で生かされていることを感じ取れる。		これまでに学んだ知識や実験技術が、実社会で生かされていることを感じ取れない。	
評価項目2	組織の一員としてのマナー、個人としての責任感、技術者としての倫理の重要性を理解し、説明できる。			組織の一員としてのマナー、個人としての責任感、技術者としての倫理の重要性を実感する。		組織の一員としてのマナー、個人としての責任感、技術者としての倫理の重要性を実感できない。	
評価項目3	実習内容やそこでの社会的経験を発表でき、質問に的確に受け答えできる。			実習内容やそこでの社会的経験を発表できる。		実習内容やそこでの社会的経験を発表できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教養 (D) コミュニケーション能力 (E)							
教育方法等							
概要	学外で実習する体験を通して、組織の一員としてのマナー、個人としての責任感を修得させる。また、実社会での技術者としての倫理の重要性を実感させる。						
授業の進め方・方法	1. 実習前に、事前講演会を聴講し、事前学習書を提出する。 2. 夏季休業中の時期において、約10日間各学生が学外で実習する。 3. 学外の工場、公的事務所、研究所、大学研究室などで実習を体験する。 4. 実習終了後は受け入れ先の指導責任者の証明書を得るとともに、報告書を作成する。 5. 教員を対象にして、実習の報告会を行う。						
注意点	受入先の指示に従い、学生として良識のある行動をとること。学校で習う知識と広い意味での現場での実際との違いをいろいろな角度から感じて欲しい。また、それをばねにして今後の勉学に励んで欲しい。低学年の学外研修や3、4年の工場見学、また、進路希望等を踏まえて、インターンシップ先を選択してほしい。インターンシップの内容に応じて、低学年の講義や実験実習で得た知識を役立てるための事前学習をしておく必要がある。(目的を明確にしておく。)インターンシップで得た知識は、4年の実験や卒業研究等で役立つ。また、進路決定にも多いに役立つ。						
本科目の区分							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	事前講演会 (実習前)			1,2	
		2週	事前学習書を提出する。(実習前)			1,2	
		3週	実習			1,2	
		4週	同上			1,2	
		5週	同上			1,2	
		6週	同上			1,2	
		7週	同上			1,2	
		8週	同上			1,2	
	2ndQ	9週	同上			1,2	
		10週	同上			1,2	
		11週	同上			1,2	
		12週	同上			1,2	
		13週	同上			1,2	
		14週	同上			1,2	
		15週	実習報告会 (実習後)			3	
		16週	報告書作成 (実習後)			3	
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					

		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	専門的能力の実質化	インターンシップ	インターンシップ	企業等における技術者の実務を理解できる。	3	
				企業人としての責任ある仕事の進め方を理解できる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを理解できる。	3	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができ、それを高めようと努力する姿勢をとることができる。	3	
				コミュニケーション能力や主体性等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を理解できる。	3	
				実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確化することができる。	3	
				実務体験を企業や職種とのマッチングの場として考えて積極的な行動ができる。	3	
		共同教育	共同教育	クライアント（企業及び社会）の要求に適合するシステムやプロセスを開発することができる。	3	
				企画立案から実行するまでのプロセスを持続可能性の実現性を配慮して実行することができる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識・教養が、企業及び社会でどのように活用されているかを理解し、技術・応用サービスの実施ができる。	3	
				地域や企業の現実の問題を踏まえ、その課題を明確化し、解決することができる。	3	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などの必要性を理解できる。	3	
				技術者として、生きる喜びや誇りを実感し、知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践創造的な活動を楽しむことを理解できる。	3	
				技術者として、社会に対して有益な価値を提供するために存在し、社会の期待に十分応えられてこそ、存在の価値のあることを理解できる。	3	

評価割合

	試験	発表	受入機関評価	態度	報告書	その他	合計
総合評価割合	0	20	60	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	20	60	0	20	0	100